

令和8年度第1回大阪府立博物館等指定管理者評価委員会 議事録

日 時：令和8年7月24日（金） 10:00～12:00

場 所：大阪府立弥生文化博物館 1階会議室（オンライン併用）

出席者：伊藤委員長、菱田委員（オンライン）、矢本委員（オンライン）

（事務局）大阪府教育庁文化財保護課

（指定管理者）AKN 共同事業体

<開 会>

事務局より委員会成立を報告。

（出席委員3名、規則の定める定足数である委員5名の過半数を満たした。）

欠席委員には事前に今回の資料、評価表案を確認していただき、内容について特に異存がなかった旨を報告。

<議事1. 委員長・委員長代理の選任について>

（1）委員の互選により、伊藤委員を委員長に選任。委員長の指名により、菱田委員を委員長代理に選任。

（2）委員会の公開について、大阪府情報公開条例第三十三条に基づき、公正な運営を確保するため、評価委員会を公表することを決定。

<議事2. 評価項目及び評価基準にかかる指標の設定について>

1. 評価項目及び評価基準にかかる指標の設定について

（1）近つ飛鳥博物館のⅠ及びⅡ

事務局より評価票（案）について説明。

（意見等）

菱田委員 ）前年度の評価・資料との整合性は取れているが、今年度から新たに取り組む内容については、評価票にわかりやすく示すなど工夫をしてはどうか。これはすべての館に共通することである。

事務局 ）承知した。

伊藤委員 ）Ⅰ-（5）について、3館連携事業「ICHIYA 月間」は月単位で実施するのか。指定管理者）詳細は検討中だが、月間企画として事業化できたらと考えている。共通テーマを設定して、3館を巡ることで効果的に学習できる工夫をする。例えば、土器を共通テーマとして、3館の特徴を活かして、各時代の特徴を学ぶなどを考え

ている。

伊藤委員) 内容を評価票に加筆できるかどうか。

事務局) 現時点で加筆可能な点があるか検討する。

(2) 弥生文化博物館のⅠ及びⅡ

事務局より評価票(案)について説明。

(意見等)

菱田委員) Ⅰ-(3)の利用者数について、入館者数は年齢・世代別でデータを取っているのか。

指定管理者) 小・中学生、高校・大学生、高齢者、一般という種別で入館者数のデータを取っている。

菱田委員) 子ども向けイベント実施に対する評価する際の根拠や、今後の事業展開のためにも有用なデータにもなるので、年代別の入館者数についても把握しておくが良い。

事務局) 年代ごとの入館者数は把握しているので、今後のイベント実施や評価として、参考にしたい。

矢本委員) 年代別での入館者数の把握は必要だと思う。

伊藤委員) Ⅰ-(4)のデジタルアーカイブの維持管理・資料追加とⅡ-(2)の動画などの公開は内容が重複しているように思えるが、項目は別になっている。Ⅰ-(4)はサービス向上につながる取組みであるため、Ⅱ-(2)の項目に入れてみてはどうか。

指定管理者) デジタルアーカイブの内容を鑑みると、Ⅱ-(2)の創意工夫に入れてもよいかもしれない。

事務局) 項目分けについては、事務局で検討する。

(3) 弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館のⅢ

事務局より評価票(案)について、議事(4)を説明。

(意見等)

菱田委員、矢本委員) 異議なし。

伊藤委員) Ⅲ-(1)(3)について、事業収支や法人の財務状況は、第2回の評価委員会が行われる1月頃の時点か。

事務局) 前年度もしくは、当該年度上半期の事業収支や法人の財務状況である。

事務局) 本日欠席の辻本委員からのコメントをいただいている。各館に共通してⅠ-(3)及び(4)について、取組の実施回数だけでなく、集客や認知の成果を確認で

きる指標も必要ではないか。I-（3）については、各イベントの参加者数についても把握し、I-（4）については、ホームページのアクセス数や SNS 投稿の閲覧数等についても把握してはどうか。とのこと。

矢本委員 ）HP・SNS の閲覧数だけでなく、閲覧場所のデータも把握してはどうか。

指定管理者）閲覧数・場所ともに把握できるが、異常なアクセスが検出される場合もあるため、正確性は担保できない。

伊藤委員 ）正確でないとのことなので、閲覧数・場所は指標としては設定しにくいものと思われる。またイベントについても天候等に左右される場合が多いとのこと。いずれもデータとしての把握は必要としても指標としての設定は難しいのではないか。

伊藤委員長：今回の意見を踏まえ、事務局で令和 8 年度指定管理運営業務評価票の内容検討・修正を進められたい。事務局でまとめたものを委員長が最終確認して成案とするということによろしいか。（全員：異議なし）

<閉 会>